2013年度
アニュアルレポート

特定非営利活動（NPO）法人ノーベル

子どもを産んでも、
当たり前に働きつづけられる社会が、きっと来る。
きっと叶えてみせる。

特定非営利活動（NPO）法人ノーベル

［ 所在地 ］　〒540-0026　大阪市中央区内本町2-4-12 中央内本町ビルディング701

［ 電話番号 ］　06-6940-4130

［ 代表 ］　高 亜希　　一般財団法人日本病児保育協会理事

［ ホームページ ］　http://nponobel.jp　　［ e-mail ］　info@nponobel.jp

この5年で子どものために　という気持ちが強くなりました。

みなさま、こんにちは。
2013年度も無事に子どもの命を守ることができ、ほっとしています。

ノーベルを立ち上げてから5年がたちました。
この5年間を振り返るべく、2013年度のアニュアルレポートは「5年間の歩み」というかたちで表現してみました。今日はこの5年間を振り返り、これからの5年についてお話します。

2009年4月、私はたった一人で机に向かってブログを1つ書きました。「大阪で病児保育をやります。団体名はノーベル。」という宣言でした。

同時に、病児保育施設にボランティアで週1回通い、また、障がいを持つ子どもたちと過ごすデイサービスでアルバイトをしながら立ち上げ準備をしました。

事務所はカフェ。毎日、毎日、電源のあるカフェに通い、打ち合わせはカフェ、作業もカフェ、朝から晩まで入り浸ることもありました。今では、そのカフェ、電源利用禁止です（笑）

お金もなし。人もなし。事務所もなし。
そんなところから始まったノーベルですが少しずつ少しずつカタチになっていきます。

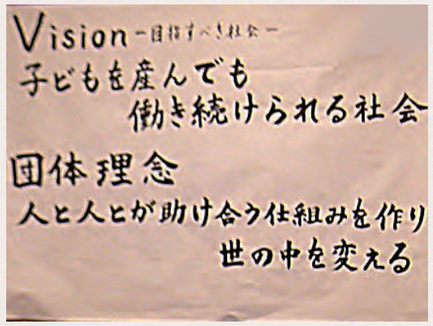
「ノーベルに興味があるんですけど」
「ボランティアできませんか」
「寄付したいんですけど」

こうやって、仲間が1人、2人、3人と増え、2010年2月のサービスインが実現しました。最初は大阪市の中央区・西区という2区からスタートしましたが、今では大阪市（24区）、吹田市、東大阪市と拡がりました。

利用会員さんはサービスイン時はたったの3名でしたが、今では累計約500名の利用会員さんをサポートするまでになりました。

そして、スタッフは約30名、事務所も約100㎡ほどの広さになりました。

ここまで書けば、順調だなと思った方もいるかもしれません。いろんな出来事はありましたが、確かに、ノーベルは順調だったかもしれません。



▲ 北浜事務所に飾っていた 模造紙に手書きのノーベルVisionと団体理念。初期のインターン生が書いてくれた。

▲ 2010年2月 ノーベルサービスインイベントのときの集合写真。初期の利用会員様とノーベルスタッフが集まる、貴重な1枚。

ですが、この5年間で、社会の矛盾をより感じるようになりました。
この5年間でコツコツと積み重ねていく大切さを学びましたが、努力だけでは難しいことも多く経験し、努力だけが全てではないことも痛感しました。

一体、なんのために保育園を増やし続けるのでしょうか。
一体、なんのために女性の雇用促進をし続けるのでしょうか。

「なんのために」

この言葉がいつも頭の中をぐるぐるとまわっています。

国や大人の都合で、モノゴトがどんどん進んでいくのを見て子どもたちの未来はどうなるのかといった気持ちを占めることが多くなりました。

ノーベルを立ち上げたきっかけは”女性が子育てと仕事の両立ができるように”でした。
ですが、この5年で、いろんな出会い・経験があり、子どものためにという気持ちがとても強くなっています。

未来の子どもたちのために、
子どもを産んでも当たり前に働き続けられる社会を作りたい。

ノーベルの団体理念は
「人と人が助け合う仕組みを作り世の中を変える」

これからの5年は現場を持つ強みを活かし、
ノーベル以外の誰か・組織とどう関わり、繋がっていくかです。

当たり前に助け合える世の中、
それが生きる力につながるような仕掛けをしていきたいと思います。

今年から新たな挑戦に入ります。

みなさま、今年度もどうぞよろしくお願いします。

代表理事 高瑞

ビジョン

子どもを産んでも当たり前に働き続けられる社会

団体理念

人と人が助け合う仕組みをつくり、世の中を変える

事業内容

子どもの急な発熱にも100%対応

病児保育事業

子育てと仕事の両立に必要な支援とは?という質問に対して7割の方が「子どもが病気のときの対応」を挙げます。ノーベルでは、子どもが病気の時、働く親御さんの代わりにお子さんをご自宅でお預かりする訪問型病児保育を行っています。

社会の価値観を変える！

ソーシャルプロモーション事業

メディアや講演、「働く!!おかん図鑑」等の冊子の販売を通じて、現在の子育て支援の現状を発信し、知った人が行動に移し、いくつもの助け合いを生み出し、子どもを産んでも当たり前に働き続けられるという新たな社会の価値観を創造します。

大阪500世帯の声に耳を　かたむけ続けた5年間。

現場を第一に。
すべては現場からの声を元に。

この5年で病児保育の提供エリアを拡げ、「働く!!おかん図鑑」の発行、発達障がい児パックやひとりおかんっ子応援団プロジェクトなど、様々なことをスタートしました。これらはすべて親御さんの声から生まれたものです。これからも、私たちは親御さん・子どもたちと一緒に「子どもを産んでも当たり前に働き続けられる社会」を目指します。

2009

2009.11
NPO法人ノーベル設立

2010

2010.2
訪問型病児保育
大阪市中央区・西区で
サービスイン

北浜の3坪のオフィスで創業。取材でテレビクルーが全員入りきらないことがたびたび。

2010年7月に北区天満へ事務所を移転。壁に大阪市の地図を貼り次回エリア拡大について頻繁に話す日々でした。

data

累計会員数	37名
出動件数	55件

2010.7
サービス提供エリア
大阪市6区へ拡大

2010.12
サービス提供エリア
大阪市13区へ拡大

毎月開催している利用者向け説明会は、サービスイン当初から今もずっと代表みずからが説明し、母親たちの悩みなど生の声を聞いています。

2011

data

累計会員数	111名
出動件数	271件

2011.4
サービス提供エリア
大阪市18区へ拡大

2012.2
サービス提供エリア
大阪市全域へ拡大

2012.3
大阪の未来を考える
ワールドカフェ開催

利用者が参加し、交流できる、ヨガイベントやワークショップイベント等も開催し、働く親たちとコミュニケーションをとる場づくりも行ってきました。

2012

data

累計会員数	210名
出動件数	497件

2012.5
「働く!!おかん図鑑」発売開始

ワーキングマザーの最大のピンチ、子どもの病気を明るく乗り切るノウハウ満載の小冊子。子持ちクリエイター集団である、㈱電通 おかんカンパニーと協働で制作し、第9回「日本パートナーシップ賞」を受賞しました。

2012.5
東日本大震災 県外避難者
一時託児サポート事業開始

震災後に関西へ避難し、急激な環境変化で過度のストレスを受けている母子を対象に、相談支援事業を行うNPO法人み・らいずと連携し、12年4月～13年3月までの間、毎月2回、一時託児サポートを実施しました。

2012.9
発達障がい児パック リリース

発達障がい児などの子ども向け学習支援サービス「あすはな先生」と連携をとり、日本初となる発達障がい児向け病児保育をスタート。病児保育がセーフティネットとなり、利用したい人誰もが利用できる社会を目指します。

2013.1
サービス提供エリア吹田市南部へ拡大

2013.2
大阪市きらめき企業賞 受賞

男女共同参画の一環として、効果的な取組みを進めている大阪市内の中小企業等を表彰しているきらめき企業賞。橋下大阪市長直々に表彰状をいただきました。

2013

data

累計会員数	376名
出動件数	684件

2013.4
ひとりおかんっ子応援団プロジェクト リリース

個人・法人からの寄付を財源に、年収300万円以下のひとり親世帯へ安価に病児保育を提供するプログラムをスタート。「社会みんなで子育てをする世の中へ」そんな想いを込めて、『ひとりおかんっ子応援団プロジェクト』と名付けました。

2013.5
京阪不動産 大阪城ファインシティマンションでの
イベント保育・一時託児 提携スタート

マンション居住者向けに、マンション内で毎月2回、イベント保育と、半日お子様をお預かりする一時託児サポートを実施。育児中の母親達のリフレッシュの機会と住人同士のコミュニケーションの場として人気。

イベント保育の様子。毎回、ノーベルスタッフが企画し、親子ヨガやクラフト等、季節感のあるイベントを実施しています。

2014.1
サービス提供エリア吹田市全域・東大阪市西部へ拡大

2014.1
育休復帰者向け「子どもの病気 対策セミナー」開催

13年8月に中央区へ事務所を移転。業務スペースのほかにキッズスペースや会議スペースも、木製の家具や観葉植物に囲まれ温かい雰囲気。

親の不安、子どもの不安を「安心感」に変えたい。

利用者の声

昨晩から今朝にかけて
安心感をいただきました

一人目の時はノーベルのような取り組みはなく、悲壮な気持ちで過ごしていました。働くおかんの心のゆとりを子どもに還元していきます。

大阪市福島区在住 M様

利用者の声

経過報告のメールは、体調の変化と食事・遊びの様子（↑が一番ホッとします）を細かく書いてくださったので安心して仕事ができました。

大阪市阿倍野区在住 F様

利用者の声

子どもを預けることに
葛藤や罪悪感がありました

一番体が辛い時に預けることに罪悪感がありましたが、帰宅して娘が笑顔でスタッフさんの隣で遊んでいるのをみて、楽しく保育して頂けたのだなと思いました。

大阪市鶴見区在住 I 様

利用者の声

100%対応していただける事と子どもが自宅でリラックスして過ごせる事に、本当に安心感を得ることができました。

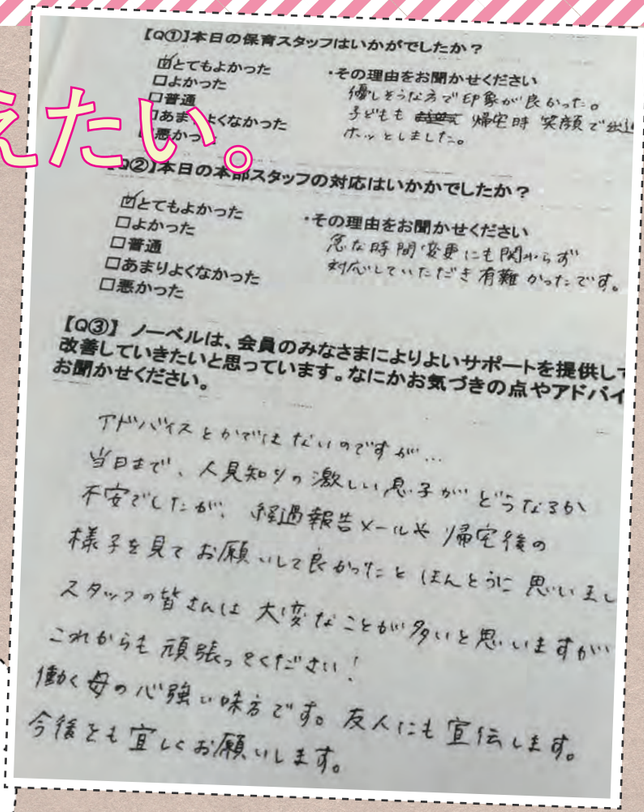
吹田市在住 I様

利用者の声

はじめての熱性けいれん
祖母では対応できなかった

けいれんを起こしたため、救急車を手配して下さり、ありがとうございました。細かく経過も伝えて下さり、こちらも落ち着いて対応できました。今日はノーベルに頼んでおいて良かった、と心から思いました。

大阪市淀川区在住 T様



▲ 病児保育ご利用後には、毎回必ず、[保育後アンケート]を会員の皆さまに記入していただき、保育の質向上につなげる

年間684件の病児保育、100%対応を守り、安心・安全の病児保育の徹底に努める。

私たちは子どもにとっても、親御さんにとっても安心・安全の病児保育をめざしています。それはどういうものか。ノーベルの保育の特徴は「受容」です。子どもが一番しんどい時に、子どもの気持ちを全部受け止めて、寄り添い、早く元気になって保育園に行けるように静の遊びを重視しながら保育をします。そして現場の保育スタッフと親御さんをつなぐ本部スタッフも連携し、親御さんが帰宅したときに、子どもの顔を見て、「預けてよかった」といった安心感のある保育を常に心がけています。

▲ 利用者説明会では、毎回必ず、代表がマイクを持ち、説明をおこない、質問に答える

万が一のケースに備えた心肺蘇生などの緊急時研修も定期実施

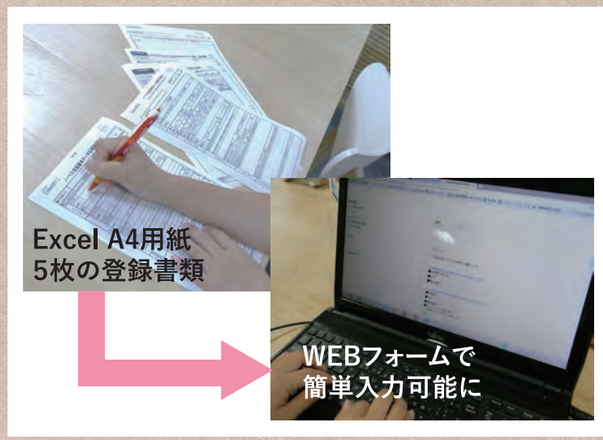
私たちの最大のミッションは子どもの命を守ること。突然の地震・火事・誤飲・急変など様々なことが考えられます。何か起きたときに子どもを守れるのはその場にいる保育スタッフ。本部と現場でどのように連携をとるかなど、1対1の保育だからこその研修を日々、積み重ねています。

▲ 毎年2回定例実施している心肺蘇生研修

▲ 災害発生時の本部のシミュレーション研修

入会登録時の利用者負担を軽減 WEBフォームで情報登録が可能に

保育1件につき、また1年に1回、利用会員のみなさんからアンケートを頂いています。どうすれば利用しやすいのかを常に話し合い、改善しています。2013年度はIT化プロジェクトと題し、利用者や子どもの情報をWEB上で入力・管理できるようにし、利用会員様の負担を軽減できました。



▲ パソコンが使えない場合も、携帯やスマートフォンからも入力可能

「子育ては誰がするもの？」　新しい価値観を浸透させたい。

「子育ては社会全体でするもの」病児保育が必要ない社会を目指す

ノーベルは、病児保育事業と併せて、病児保育問題や働く親を取り巻く現状を社会に発信するソーシャルプロモーション事業を展開しています。子どもが病気の時くらい仕事を休んでそばにいてあげられるのが理想です。その為に、親当事者だけでなく、社会全体の価値観を変えるべく、メディアや講演、冊子販売などを通じて、発信を続けています。

2013年度は、4月に寄付を財源にひとり親へ安価に病児保育を提供する「ひとりおかんっ子応援団プロジェクト」が始動しました。メディアでも大きく取り上げられ、年間25回のメディア掲載がありました。講演は年間計14回、登壇の機会をいただき、病児保育問題や、働く親を取り巻く環境、必要としている支援などについて、お話させていただきました。

また、2012年度に開始した「働く!!おかん図鑑」事業の第2段企画として、育休復帰者向けのセミナーイベントの企画実行にチャレンジし、新たなステップを進めることができました。

働くおかんの心の叫び　ノーベル新ポスター＆チラシ完成

2014年2月、ノーベルの新ポスターとチラシが出来上がりました。今回、制作してくださったのは、2012年に「働く!!おかん図鑑」を作ってくださった、株式会社電通大阪支社の「おかんカンパニー」の皆さんです。

ポスター発表後、共感の声とともに、大きな反響を呼びました。SNSでは、このポスターがきっかけで、自身の両立生活の大変な状況をつぶやいたり、子育て支援の在り方について議論する様子も多く見られました。働く親当事者だけでなく、家族、職場の上司・同僚、接点のある皆で一緒に、”子育て”と”働く”を考える機会を提供できたことは大きな収穫でした。

2014年度は、保育所や小児科ほか、ポスター・チラシの掲示・設置を広く呼びかけ、働く親御さんの目に触れるよう、取り組みます。ひとりで問題を抱え込み苦しんでいる母親が、1人でも多く、周囲のサポートを手に入れるきっかけとなるよう、リーチ拡大を目指します。

育休復帰者向けセミナー開催　「近畿ろうきんNPOアワード」大賞受賞！

子どもの急な病気も明るく乗りきるノウハウが満載の「働く!!おかん図鑑」を2012年5月13日母の日に発売開始。インパクトのあるデザイン、また冊子の内容もリアルで大好評となり、8ヶ月で約2000冊が販売され、読者からは「冊子を元に実際におかん同士で会ってさらに情報交換をしたい」、企業人事や組合からは「勉強会を開催してほしい」といった声が寄せられました。

そんな声に応え、育休復帰者向け「復帰後すぐに役立つ子どもの病気対策セミナー」、管理職向け「両立支援のためのワークショップ」を開催。
計7回の開催で、総勢152名にご参加いただました。

子育てはまわりの人を巻き込み、みんなで育てるものだと一人でも多くの人に伝え、社会全体で子育てをする価値観を広めていくこと、またどのように周りの人を巻き込んで乗りきるか具体的なノウハウを当事者たちに伝えていくべく、2014年度も本事業は継続していく予定です。

『子どもの急な病気の時の乗りきり術をひろめるプロジェクト』として、2012年度近畿ろうきんNPOアワード大賞を受賞しました！

参加者の声

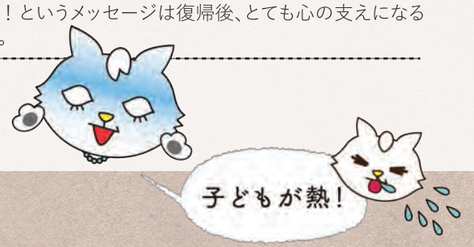
病気で休むことになると大変そう…と想像するものの、実際にどうしたらいいか？まったく考えていませんでした。今日はワークショップの時間で誰に何を頼るのか、どんなサポートを利用できるか、イメージできて、とてもよかったです！

参加者の声

パターン別に話が聞けたのでよかったです。具体的にイメージできたし、他の人と話をすることで、気持ちが楽になりました。

参加者の声

育休復帰後の不安はやはり「子どもが病気になった時の対応」が多いのですが、サポーター（親、夫、ノーベルさん他）と共にがんばろう！というメッセージは復帰後、とても心の支えになると思います。



「復帰後すぐに役立つ 子どもの病気対策セミナー」プログラム

- 自己紹介タイム
- Part1. 育休復帰後のリアル
  →子どもはどれくらい病気になるの?リアルな体験談を紹介
- Part2. おかんタイプ別 乗りきり術
  →感染予防法から夫を巻き込むコツまで実践的ノウハウを紹介
- Part3.「我が子が5日間登園禁止になったら?」シミュレーション
- 質問タイム

ひとり親の不安をぬぐい　子育てを楽しめるように。

2013年4月
ファンドレイジング事業部始動！

「明日、仕事を休むとクビになるんです」
きっかけはひとりおかんからの1本の電話

大阪は、全国一、ひとり親家庭が多い街です。仕事を休むとたちまち生活苦に陥ってしまうひとり親家庭にとって、病児保育は命綱にもなりうるもの。
サービスイン間もないノーベル事務所にも「明日、利用したい」「利用したいけど料金が高くて入会できない」といった切実なお声を何度もいただきました。

2012年度 約200万円のご寄付をいただき、
ひとり親向け病児保育プログラム準備

2012年春、当時サラリーマンだったスタッフ北村がJustGiving（寄付集めサイト）にて、100万円のチャレンジをスタート。2013年春にひとり親向け病児保育の提供開始を目指して、「100万円を集めるまで、平日毎日5キロ走り続ける」と宣言。開始からなんと845キロを走り、寄付目標金額100万円を達成！ 皆さまからの大切なご寄付を準備資金として活用しました。

13年4月[ひとりおかんっ子応援団プロジェクト]
初年度80名の継続寄付者により30名をサポート

2013年4月から、寄付を集めて低価格で病児保育を提供するひとりおかんっ子応援団プロジェクトがスタート。1年間で80名の方から継続寄付のお申し出をいただき、単発寄付者と併せると、総勢218名の方から約450万円のご寄付をいただきました。そして30名のひとりおかんっ子の病児保育サポートを叶えました。

病児保育支援

子どもの急病時に、親にかわり保育スタッフが子どもをケアする「病児保育サポート」。このサポートを、ひとり親家庭に低価格で提供し、急病時にいつでも利用できるようにすることで、

1）子どもの急病時でも仕事をつづけられる安心感
2）ひとり親家庭の就労・経済的自立の支援
3）子どもに貧困が引き継がれる連鎖の断ち切り

この3つを叶えていくプロジェクトです。一度きりの支援でなく、継続的に支援していくため、その財源を寄付制度で支えていきます。

プロジェクトのしくみ

寄付を財源に、平均8,000円を
月1,050円でひとり親世帯へ提供

1世帯に約8,000円/月の運営費がかかる病児保育を、皆さまからのご寄付を財源に、ひとり親家庭には月1,050円で提供します。支援を受ける期間は最長2年。経済的自立を築いてもらうための2年でもあります

2013年度の成果

病児保育サポートが提供できた
ひとりおかんっ子数　30人

利用者の声

子どもが病気になれば親子共倒れ。生活困難におちいり、途方に暮れる毎日。仕事に行けなくなり職員や上司に迷惑をかけてしまい、気力、体力を奪われ、謝り続ける事しかできませんでした。一人で乗り越える事の難しさを背負い、負けてたまるかと頑張っていましたが、ノーベルさんを利用して救われました。

大阪市在住　M.Kさん

利用者の声

以前はまわりに頼れる人がおらず自分が休みをとるしかなく、年度末には有給が足りなくなる状況でした。上司に仕事量を他の社員と比べられ子育て中というのは言い訳で個人の努力不足であると面談で言われた時はくやしくてくやしくてでもどうすれば良いのか分からず途方に暮れていました。
ノーベルを利用するようになって急に長期間休むという事がなくなりおかげさまで今年度は多くの仕事量をこなす事ができました。
子どもに対しても余裕をもって接する事ができ不安要素が1つ減った事で子育てを楽しめるようになりました。本当にありがとうございます。

ひとりおかんっ子応援団
寄付団員数　80人

単発寄付などを含めた
寄付者総人数　218人

寄付者の声

子どもは「社会の宝」。「宝もの」をお一人で大切に守り育てておられるひとりおかんを、一人ひとりが力を出し合って支え、守り育てていけるといいですね。ひとりおかんっ子がみんなのあたたかみを感じ、すくすくと育っていくことを心から希っています。

兵庫県在住　川中大輔さん

寄付者の声

同じ働く母として、少しでも多くの母に働き続けてもらいたいといつも思っています。病児育児保育は最強のサポートだと思います。大丈夫、子どもは少しずつ丈夫になっていきます！

大阪府　黒瀬公美さん

寄付や広報面で支援くださった
サポート法人数　14団体

<ご寄付でのサポート>

マザーグループ株式会社 ／ ダイヤ事務機株式会社
株式会社フラグスポート ／ 有限会社日英ジャパン
NPO法人大阪精神障害者就労支援ネットワーク
エートス法律事務所

<ご寄付以外でのサポート>

株式会社イージェット ／ 株式会社ピナコ ／ 大日本
住友製薬株式会社 ／ 株式会社リンクス ／ 株式会社
ダイヤアクセス ／ 財団法人関西カウンセリングセンター
株式会社アスコ ／ 株式会社アクセスワン　（敬称略）

2013年度寄付金額総額　4,488,172円

ご協力くださった皆さま、本当にありがとうございました。

ひとつでも多くの家庭に　心のゆとりを届けたい。

人と人が助け合う仕組みを進化させ 更なるサポート世帯数アップを目指す

「人と人が助け合う仕組みを作り、世の中を変える」を団体理念に掲げている通り、ノーベルの活動に賛同し、応援してくださる方がご寄付をしやすい仕組みを用意してまいりたいと思います。そして現在、寄付待ちの状態でノーベルを利用したくてもできない状況にある、約40のひとり親世帯が、1日でも早く、ノーベルに入会できるように取組み、安心を届けたいと思います。

▲ ※1 一般ランナー申込み時に、必ず1口500円×2口の寄付をする必要があり、選択した支援テーマ先に寄付が届く仕組みになっている

2014年10月26日開催 大阪マラソン公式寄付先に決定

ランナー3万人、観客130万人が参加し「世界で最も多くの人がチャリティに参画するマラソン」を目指している大阪マラソン。第4回開催の公式寄付先団体に、地元大阪の団体としては唯一、ノーベルが選ばれました。寄付を集めて出走可能なチャリティランナーや、一般ランナーの申込み時のご寄付(※1)により、支援いただく予定です。

チャリティランナーの声

たくさんの子供が日本や世界を未来へ導く大切な命であり財産だから。すべての子供たちが社会に不安を抱くことなく未来へ夢を持ってもらいたい。

チャリティランナーの声

子どもの急な体調不良で仕事を休むことは当然の権利だと思います。しかし、十分に対応できる職場は数少ない為、雇い主だけではなく社会でサポートする必要があると思いました。

寄付額の最大約5割が戻ってくる！ 寄附金控除の対象になりました

ノーベルは、14年4月より、事業活動が適正で、公益の増進に資すると認可され、仮認定NPO法人となりました。これによりノーベルに寄付された方は、確定申告で、寄付金控除等の税制優遇を受ける事ができます。

どれ位戻ってくる？

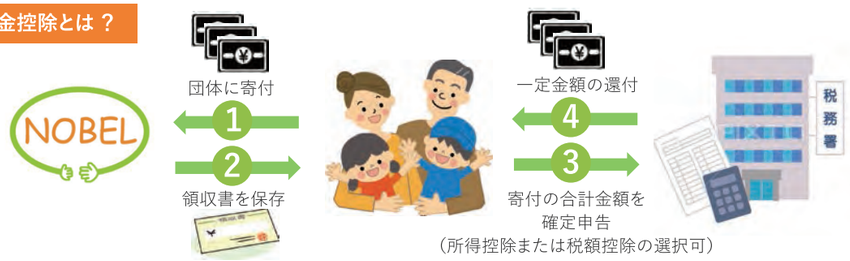
ぺんぎん団員（毎月1,000円の継続寄付）に加入した場合

＜日本全国の方対象＞
所得税上の優遇 ▶ (12,000円−2,000円)×40%=4,000円

＜大阪市民対象＞
住民税上の優遇 ▶ (12,000円−2,000円)× 6%= 600円

年間12,000円寄付すると 最大4,600円が戻ってくる！

寄附金控除とは？



ひとり親家庭を支える「ひとりおかんっ子応援団」の寄付団員を募集しています

大阪のひとり親家庭は7万余り。その半数は、働いても、生活が安定しない非正規雇用です。

親の都合でひとり親になった家庭もあるでしょう。
しかし子どもには、健やかに育つ環境と、人並みの選択肢がある社会であるべきです。

子どもが病気をするのは当たり前のこと。強い体をつくるためには必要なこと。
それは私たち大人の誰しもが、通ってきた道。
子どもが病気をしても、ひとり親が安心して働けたら、防げることが、たくさんあります。

皆さまの支えを、どうぞよろしくお願いいたします。

ご支援の方法

ひとりおかんっ子応援団員となり、継続的なご寄付で支援していただく制度です。ご寄付の金額を3種類から選べます。
応援団員になられた方にはノーベル事務局より「応援団員キット」が届きます。

ひとりおかんっ子応援団員の種類

ぺんぎん団員 1,000円／月
応援団7人で、
ひとり親家庭1世帯をサポートできます。
【応援団キット】
●応援団員カード　●応援団メールマガジン（配信）

ぱんだ団員 3,500円／月
応援団2人で、
ひとり親家庭1世帯をサポートできます。
【応援団キット】
●応援団員カード　●応援団メールマガジン（配信）
●子育てと仕事の両立事例冊子「働く!!おかん図鑑」
●活動報告書

しろくま団員 7,000円／月
応援団1人で、
ひとり親家庭1世帯をサポートできます。
【応援団キット】
●応援団員カード　●応援団メールマガジン（配信）
●子育てと仕事の両立事例冊子「働く!!おかん図鑑」
●活動報告書　●ひとりおかんっ子家庭からのお手紙

＊ぱんだ団員、しろくま団員の特典である「働く!!おかん図鑑」は初回の寄付に対する特典で1回のみとなります。

お支払い方法

クレジットカード または 銀行口座振替

＊利用可能なクレジットカードはVISA、MasterCardの2種類となります。ご了承ください。

お申込み方法

ノーベルホームページ
http://www/nponobel.jp
または
お電話
☎ 06−6940−4130

その他の支援の方法

任意の金額によるご寄付

任意の金額によるご寄付もノーベルホームページより受付けています。お支払い方法は[クレジットカード決済]または[銀行振込み]をお選びください。

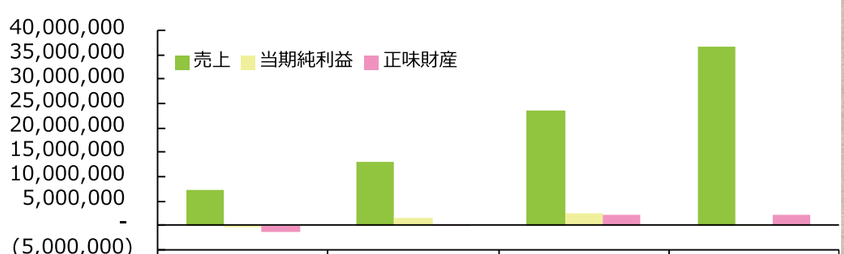
振込口座
銀行名：三井住友銀行　支店：大阪中央支店
口座：普通預金　口座番号：8318283
口座名義人：特定非営利活動法人ノーベル

読み終わった本やCDが寄付にかわるチャリボン

申込み1本、送料無料で不要になった本等を送ると、買取り相当額がノーベルへの寄付になるチャリボン。
下記、URLよりお申込みをお願いします。

申込URL [支援先]から[ノーベル]を選択して手続きを進めて下さい
https://www.charibon.jp/

2010年度～2013年度の収入／当期純利益／正味財産



	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
売上	7,188,795	12,921,360	23,610,090	36,689,202
当期純利益	▲395,807	1,444,241	2,552,918	35,320
正味財産	▲1,208,195	236,046	2,192,164	2,161,784

2013年度の活動計算書

科目	金額（単位：円）		
Ⅰ 経常収益			
1.受取寄付金		4,436,827	
2.受取り助成金等		800,000	
3.事業収益			
病児保育事業収益	23,986,227		
病児保育（企業提携）事業収益	1,386,000		
病児保育（ひとり親支援）事業収益	5,126,358		
ソーシャル・プロモーション事業収益	920,779	31,419,364	
4.その他収益			
受取利息	1,231		
雑収入	31,780	33,011	
経常収益計			36,689,202
Ⅱ 経常費用			
1.事業費			
(1)人件費	23,553,695		
(2)その他経費	5,824,210	29,377,905	
2.管理費			
(1)人件費	4,320,101		
(2)その他経費	2,955,876	7,275,977	
経常費用計			36,653,882
当期経常増加額			35,320
税引前当期正味財産増減額			35,320
法人税等			65,700
当期正味財産増加額			▲30,380
前期繰越正味財産額			2,192,164
次期繰越正味財産			2,161,784

※2014年度に決算修正申告を行ったため、「受取寄付金」「病児保育事業収益」「ソーシャル・プロモーション事業収益」を修正しています。(2024年1月)

2014年度 ノーベル各事業部の目標

2014年、サービスイン5年目に突入し、ノーベルは第2創業期のスタートを迎えています。≪花咲くプロジェクト≫と題し、管理職候補や専門家の採用を強化し、更なる組織基盤の強化をはかります。既存の事業だけにとどまらず、新規事業も積極的に取組み、「子どもを産んでも当たり前に働き続けられる社会」の実現に向けて、チャレンジし続けます。

病児保育事業部

- 病児保育におけるヒヤリハット事例のオンライン共有化
- 病児保育におけるWEBフォーム予約の導入
- 保育スタッフ研修コンテンツのブラッシュアップ

広報部

- 啓発活動の強化（おかん図鑑キャラクターに伴う商品開発）

ファンドレイジング事業部

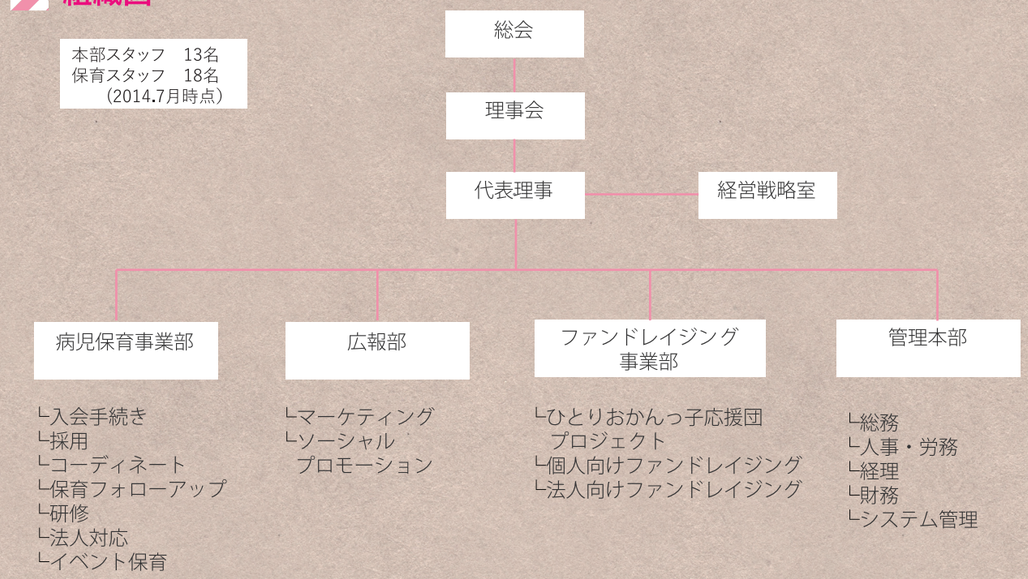
- 80名のひとりおかんっ子をサポート
- 大阪マラソンでひとりおかんっ子応援団プロジェクトの啓発活動を実施

経営戦略室

- 行政との協働プロジェクト実施と目標達成

管理本部

- システム導入を実施し、請求業務を簡素化
- 人員1の補充で体制強化

組織図

本部スタッフ　13名
保育スタッフ　18名
（2014.7月時点）